News Release

本資料は 2017 年 2 月 24 日に BASF 本社（ドイツ）で発表されたプレスリリースの和訳です。

BASF、2016 年（1 月～12 月）の業績を発表
第 4 四半期は、売上高、利益ともに前年同期を大幅に上回る

2017 年 2 月 28 日

2016 年第 4 四半期:

- **売上高は 148 億ユーロ（前年同期比 7%増）**
- **特別項目控除前営業利益は 12 億ユーロ（前年同期比 15%増）**

2016 年通年:

- **売上高は 576 億ユーロ（前年比 18%減）**
- **特別項目控除前営業利益は 63 億ユーロ（前年比 6%減）**
- **化学品事業は前年比大幅増益、石油・ガス部門および「その他」に分類される事業は大幅減益**
- **1 株あたり利益は 4.42 ユーロ（前年比 2%増）**
- **2016 事業年度の配当金は 3.00 ユーロを提案（2015 年は 2.90 ユーロ）**

2017 年の見通し:

- **全部門で売上増となり、大幅な成長達成の見通し**
- **特別項目控除前営業利益は微増と予想**

BASF（本社：ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン）はこのたび、2016 年の業績を発表しました。売上成長、利益ともに BASF が設定していた目標を達成しました。化学品事業は順調な伸びを見せ、採算性がさらに向上

しました。石油・ガス部門の利益は、予想通り前年の水準を達成することができませんでした。ルートヴィッヒスハーフェンで開催された年次記者会見にて、BASF 取締役会会長 Dr. クルト・ボックは、次のように述べています。「2016 年が経過するにつれて、BASF の業績は成長しました。販売量が四半期ごとに増加したのです。特にアジアでは、化学品事業で継続的な販売量の増加を達成しました。私たちが近年行ってきた、研究開発への大幅な投資や生産能力の増強が成果を上げました。」

2016 年第 4 四半期の売上高は、主に販売量の増加により前年同期比 7%増の 148 億ユーロとなりました。BASF グループ全体、また、化学品部門、高性能製品部門、機能性材料部門の 3 部門で構成される化学品事業の販売量は、いずれも 6%増加しました。特別項目控除前営業利益は、前年同期比で 1 億 5,700 万ユーロ増加し、12 億ユーロとなりました。化学品部門、機能性材料部門、石油・ガス部門で大幅増益となり、農業関連製品部門、「その他」に分類される事業の減益を十二分に埋め合わせました。

2016 年通年の売上高は 18%減少し、576 億ユーロとなりました。これは主に、2015 年 9 月末に行ったガス取引・貯蔵事業の売却（ガスプロムとの資産交換の一環である）に起因しています。同事業は 2015 年の売上高に 101 億ユーロの貢献をしていました。ポートフォリオ変更による影響で、全体としての売上高が 15%減少しました。また、原材料価格の下落が販売価格の引き下げ（4%減）につながりましたが、1 年を通して継続して販売量を増加させることができました。販売量は全体として前年比で 2%増加し、なかでも化学品事業では 4%増加しました。為替のマイナス効果により、わずかな減収が見られました（1%減）。

特別項目控除前営業利益は、前年比 4 億 3,000 万ユーロ減の 63 億ユーロとなりました。主に価格の下落と天然ガス取引・貯蔵事業の売却の影響から石油・ガス部門で約 8 億 5,000 万ユーロ減となったことが、今回の結果につながりました。ガスプロムに移譲した事業は、2015 年の特別項目控除前営業利益に約 2 億 6,000 万ユーロ貢献していました。農業関連製品部門の特別項目控除前営業利益は、前年の水準を維持しま

した。化学品事業では、高性能製品部門、機能性材料部門の著しい貢献により大幅な増益となりました。純利益は前年の 40 億ユーロを上回り、41 億ユーロとなりました。1 株あたり利益は、前年の 4.34 ユーロから 4.42 ユーロに増加しました。

3.00 ユーロの配当金を提案

不安定な市場環境下で、BASF の株価は非常に順調に上昇し、88.31 ユーロで 2016 年を締めくくることができました。これは前年末と比べ、約 25%の上昇です。配当金の再投資で、BASF の株価は 30%の伸びを見せました。これは DAX 30（7%増）や DJ ユーロ・ストックス 50（4%増）、MSCI ワールド・ケミカルズ（11%増）を大幅に上回る上昇率です。ボックは、「BASF は自社の配当方針に従い、年次株主総会にて 1 株あたりの配当金を再び 0.10 ユーロ増額し、3.00 ユーロで提案する予定です」と述べています。2016 年末の株価の終値を基準とし、BASF 株は今回も 3.4%という高い配当利回りを提供します。

2017 年の見通し

「2017 年の見通しとして、私たちは慎重ながらも楽観的な見方をしています。さらなる成長を目指し、全ての部門からの貢献を期待しています。そして何より、再び増益を目指します。石油・ガス事業でも同様です。世界経済はおそらく 2016 年と同じようなペースで成長すると思われます。政治的な不安定さを踏まえると、依然として変動性は高いと言えるでしょう。」とボックは述べています。欧州連合では大幅な成長減速が予想されます。米国では、経済成長がわずかに上向きになると見られています。中国における経済成長は今後、さらに減速が続く見込みです。ブラジルおよびロシアにおける不況は終わりを迎えると思われます。

BASF の 2017 年の見通しは、以下の経済予測に基づいています（カッコ内は前年の数字）。

- 世界経済の成長率: +2.3% （+2.3%）
- 世界の化学品生産の成長率（医薬品を除く）: +3.4% （+3.4%）

- ユーロ／ドルの平均為替レート: 1 ユーロ＝ 1.05ドル（1 ユーロ＝ 1.11ドル）
- 年間平均ブレント原油価格: 1 バレル＝ 55ドル（1 バレル＝ 44ドル）

2017 年、BASF グループの売上高は大幅に増加すると予想されます。高性能製品部門における売上高の微増に加え、それ以外の部門および「その他」に分類される事業で、売上高が大幅に増加するとみられることが理由です。

「BASF は 2017 年、特別項目控除前営業利益で、2016 年比微増を目指します。石油・ガス部門からの貢献が大幅に増えると見ています。高性能製品部門、機能性材料部門、農業関連製品部門では、特別項目控除前営業利益が微増すると考えていますが、一方、化学品部門からの貢献は前年の水準と同レベルになるでしょう」とボックは述べています。

政治的、経済的に不安が高まっていることから、BASF は今後も支出、およびコスト面で厳格な管理を継続していきます。戦略的エクセレンスプログラムである DrivE が、この目標に貢献しています。2018 年末からは、ベースラインとなる 2015 年と比較し、毎年約 10 億ユーロの利益貢献が同プログラムから得られると BASF では考えています。2016 年の利益貢献は 3 億 5,000 万ユーロに達しました。

大幅投資の段階が終わり、これまでの発表通り、BASF は 2016 年の投資規模を 10 億ユーロ以上縮小させました。資本支出（買収による土地、工場、設備の追加、資金供給、復旧義務、IT 投資は除く）への投資額は 39 億ユーロでした。「今後数年間は、同程度の投資を行う予定です。私たちは現在、新たな工場をフル稼働させており、昨年見られた販売量増加の勢いを拡大させていきます」とボックは述べています。

部門別業績

「化学品部門」の第 4 四半期の売上高は、販売量の増加、販売価格の上昇により 12%増の 36 億ユーロとなりました。特別項目控除前営業利益は、3 億 8,600 万ユーロ増の 6 億 3,500 万ユーロでした。これは、特に

イソシアネートやクラッカー製品の利益率が上昇したことが主因です。通年では、特に石油化学品事業本部での原材料価格の下落に伴う販売価格の低下により、売上高は 8%減の 135 億ユーロとなりました。販売量の増加も、これを相殺することはできませんでした。特別項目控除前営業利益は、前年比で 9,200 万ユーロ減少し、21 億ユーロとなりました。これは主に、新生産工場の始動に伴う固定費の増加が原因です。石油化学品事業本部、中間体事業本部の利益率が低下したことも、特別項目控除前営業利益の減少につながりました。モノマー事業本部におけるイソシアネートの利益率の向上が、減少の緩和に貢献しました。

「高性能製品部門」の第 4 四半期の売上高は、前年同期比 1%減の 36 億ユーロとなりました。特別項目控除前営業利益は利益率の向上により微増となり、2 億 3,100 万ユーロでした。通年の売上高は前年比 4%減の 150 億ユーロとなりました。これは主に、販売価格の低下や 2015 年に完了した事業分離が原因です。特別項目控除前営業利益は 3 億 7,900 万ユーロ増加し、17 億ユーロとなりました。これは主に、利益率の向上に加え、事業再構築や固定費の厳格な管理により、固定費を大幅に削減したことによるものです。

「機能性材料部門」の第 4 四半期の売上高は、販売量の増加により、前年同期比 10%増の 50 億ユーロとなりました。特別項目控除前営業利益は、販売量の増加、望ましいプロダクト・ミックス、徹底したコスト管理の継続により、6,900 万ユーロ増の 4 億 5,800 万ユーロとなりました。通年の売上高は、1%増の 187 億ユーロでした。全事業本部で販売量が増加したことで、販売価格の低下や為替における若干のマイナス効果を、十二分に吸収できました。販売量の増加は主に、自動車産業の製品に対する需要が高まったことによるものです。建設産業の事業は、全体的に販売量が高い水準にありました。特別項目控除前営業利益は前年比 2 億 9,700 万ユーロ増の 19 億ユーロでした。全事業本部、特にパフォーマンスマテリアルズ事業本部が今回の大幅増益に貢献しました。

「農業関連製品部門」の第 4 四半期の売上高は、販売量の増加により 10%増の 13 億ユーロとなりました。特別項目控除前営業利益は 6,500

万ユーロ減の 7,900 万ユーロとなりました。これは除草剤ジカンバなどの生産施設の新設、拡張などの影響から固定費が増加したことが原因です。通年では、販売量の減少と為替のマイナス効果が影響し、売上高は 4%減の 56 億ユーロとなりました。農業関連製品に関しては厳しい市場環境が続き、とりわけ南米での殺虫剤の需要、欧州での殺菌剤の需要が弱まりました。販売価格は 2015 年の水準を維持しました。厳格なコスト管理により、農業関連製品部門では固定費を削減させることができました。このおかげで、売上高が減少したものの、特別項目控除前営業利益は 11 億ユーロと、前年の水準を維持することができました。

「石油・ガス部門」の第 4 四半期の売上高は、販売量の増加と販売価格の上昇により、前年同期比 26%増の 9 億 2,200 万ユーロとなりました。特別項目控除前営業利益は 3,600 万ユーロ増の 1 億 6,300 万ユーロとなりました。通年の売上高は、前年比 79%減の 28 億ユーロとなりました。2015 年 9 月末に完了したガスプロムとの資産交換のため、天然ガス取引・貯蔵事業および Wintershall Noordzee B.V.からの貢献が 2015 年第 4 四半期で消滅しました。これらの事業活動は 2015 年の売上高に 101 億ユーロの貢献をしていました。継続して行っている石油・ガス事業では、販売量が前年比 15%増となりましたが、販売価格と為替の影響が合計でマイナス 15%見られました。2016 年の特別項目控除前営業利益は、8 億 4,900 万ユーロ減の 5 億 1,700 万ユーロでした。これはガス取引・貯蔵事業をガスプロムに売却したことに加え、原油、ガスの価格が下落したことが主因です。ガスプロムに移譲した事業は、2015 年の特別項目控除前営業利益に約 2 億 6,000 万ユーロ貢献していました。

「その他」に分類される事業は、第 4 四半期の売上高が前年同期比 22%減の 5 億 1,800 万ユーロとなりました。特別項目控除前営業利益は、前年同期のマイナス 1 億 1,400 万からマイナス 3 億 8,600 万ユーロに減少しました。通年の売上高は、前年比 28%減の 20 億ユーロとなりました。原材料取引事業の販売価格の低下、および販売量の減少が主因ですが、シンガポールで行っていた共同事業エルバ・イースタンの株式を 2014 年末に BASF が売却したことに関連し、供給契約が終了したこ

とも影響しました。「その他」に分類される事業の特別項目控除前営業利益は前年比で 1 億 6,200 万ユーロ減少し、マイナス 11 億ユーロとなりました。これは主に、長期インセンティブ（LTI）制度における評価替によるものです。為替のプラス効果が、減少の緩和に貢献しました。

■BASF について

BASF（ビーエーエスエフ）は世界をリードする化学会社（本社：ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン）で、持続可能な将来のために、化学でいい関係をつくります。また、経済的な成功、環境保護、そして社会的責任を同時に実現しています。BASF では、約 114,000 人の社員一人ひとりがほぼすべての産業、ほぼすべての国においてお客様の成功に貢献できるよう努めています。製品ポートフォリオは化学品、高性能製品、機能性材料、農業関連製品、石油・ガスの 5 つの部門から成ります。2016 年、BASF は約 580 億ユーロの売上高を達成しました。BASF の詳しい情報は、www.basf.com（英語）、newsroom.basf.com（英語）、www.basf.com/jp（日本語）をご覧ください。

将来の予測に関する記述について

この文書には BASF 経営陣による現時点での経験、推測、および予測、ならびに現在入手可能な情報に基づく「将来の予測に関する記述」が含まれています。これらは将来の業績を保証するものではなく、予測が困難な一定のリスクと不確実性を含んでいるほか、将来のできごとに関する、正確とは限らない仮定に基づいています。BASF の実際の結果、業績、達成事項は、多くの要因によってこれらの記述が明示的または黙示的に示したものとは大きく異なる場合があります。この文書に記載された将来の予測に関する記述に関しては、BASF は更新の義務を負いません。